

自己評価報告書(最終報告)

報告者

幼年発達支援コース
／浜崎 隆司

■平成24年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 科研費申請に向けた計画等

国立大学法人運営費交付金は年々削減され、教員の研究費配分も厳しくなっており、教員各自が研究のための外部資金を獲得しなければならない状況である。そこで、科研費申請に向けて、あなたが考えているテーマと計画等について示してほしい。

1. 目標・計画

人間関係における信頼関係について広域にわたる研究を昨年より開始している。まずは親子における信頼感尺度の開発を行い、親子での信頼関係を築くための要因とは何かについて、全国4～5大学での基礎的研究を開始する。この研究は、教師と児童・生徒、友だち関係など将来範囲を拡大して、人と人との信頼関係について心理学的な観点から10年の期間をかけて調査研究していくものである。

2. 点検・評価

人間関係における信頼関係について広域にわたる研究を昨年より開始している。本年度は、まずは親子における信頼感尺度の開発を行い、親子での信頼関係を築くための要因とは何かについて、全国4～5大学での基礎的研究を開始した。長崎県の1大学、埼玉県1大学、徳島県2大学、東京都1大学で、尺度開発のための基礎的質問紙調査を開始した。研究は、教師と児童・生徒、友だち関係など将来範囲を拡大して、人と人との信頼関係について心理学的な観点から10年の期間をかけて調査研究していくものである。本年度は、本学の学部紀要に信頼感尺度の基礎的研究を発表した。これらの基礎的研究をベースとし、共同研究として科研費申請の準備を行っている。

I-2. 大学院学生定員の充足に向けた取り組み

専攻・コースのこれまでの大学院学生定員の充足状況を踏まえた上で、あなたは定員充足のためにどのような取り組みを行うか、具体的に示してほしい。

1. 目標・計画

毎年訪問している大学を含め年間10大学程度を中心に、大学院説明会、個人相談、就職支援課への訪問を行い、定員確保に取り組む。本大学での大学院説明会には積極的に参加し定員確保に努める。大学卒業生で、今年度大学院受験希望者を研究生として受け入れ大学院受験のための支援を行う。

2. 点検・評価

毎年訪問している大学を含め年間10大学程度を中心に、大学院説明会、個人相談、就職支援課への訪問を行い、定員確保に取り組んだ。
本年度は、活水女子大学、共立女子大学、長崎県立大学、倉敷市立短期大学、東京純心女子大学、比治山大学等での大学院説明会、研究室訪問を行った。
メール等での問い合わせに、大学訪問を希望する者があれば、大学内の案内や説明のための時間を設けた。来学できない学生に対してはこちらから説明のための訪問を行った(2大学)。

II. 分野別

II-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

・幼児期は、周囲を取りまく人々との絆をしっかりと築く重要な時期である。幼児教育関連の講義内容の中で、幼児と保育者、幼児と親、幼児同士の人間関係を中心に、信頼関係の在り方について講義を進める。

・学生の意欲を引き起こし、基礎学力や応用力をしっかりと身に付けさせるために、講義だけでなく、保育現場や家庭の親子関係の映像資料を随時用いて、興味関心を持たせ、自分自身の問題として討論を通じて、保育実習や勤務先の幼稚園・保育所等でその知識が役立つようにする。

・学生の能力や努力を正當に評価し、学生のやる気を引き出すような適正な成績評価を実現するために、出欠の記録を厳格に行い、試験と出席状況の評価点の配分を事業開始時に開示する。

大学院生の研究意欲を高めるために、大学院生と共に自主的な研究会を設け、その研究成果を学会発表したり、学会誌に投稿する。

教職志望の学生のために、模擬面接・模擬授業を実施する

心理学を専攻しているので学生の進路・悩み等についてゼミ生だけでなく、講義受講者にも相談事があれば、受け入れることを通知し、相談があれば積極的に応じる。

2. 点検・評価

・幼児教育関連の講義内容の中で、幼児と保育者、幼児と親、幼児同士の人間関係を中心に、信頼関係の在り方について講義を進めた。

学生自身の人間関係や周囲の人との信頼感についても考えさせるような内容を講義に含めて保育関係(人間関係)を後期の授業で実施した。

・学生の意欲を引き起こし、基礎学力や応用力をしっかりと身に付けさせるために、講義だけでなく、保育現場や家庭の親子関係の映像資料を随時用いて、興味関心を持たせ、自分自身の問題として討論を通じて、保育実習や勤務先の幼稚園・保育所等でその知識が役立つようにした。本年度は3歳～5歳期の幼児の幼稚園での発達を記録したDVDを購入し、授業に使用した。

・学生の能力や努力を正當に評価し、学生のやる気を引き出すような適正な成績評価を実現するために、出欠の記録を厳格に行い、試験と出席状況の評価点の配分を事業開始時に開示した。出席は毎回厳格に行った。授業の最初に評価についての説明を行った。

大学院生の研究意欲を高めるために、大学院生と共に自主的な研究会を設け、その研究成果を学会発表したり、学会誌に投稿する。本年度は2件の学生と共同発表(応用教育心理学会および発達心理学会)を行った。

心理学を専攻しているので学生の進路・悩み等についてゼミ生だけでなく、講義受講者にも相談事があれば、受け入れることを通知し、相談があれば積極的に応じる。本年度は7件の相談を受けている。

II-2. 研究

1. 目標・計画

親子の信頼関係の尺度開発を行う。その成果を、論文化し投稿するまた、その尺度の信頼性妥当性の検討および尺度を用いた関連研究に着手する。さらに、その資料を保育者対象の研修や講演・子育て相談を行う際の資料として活用する初心者向けの乳幼児心理学のテキストや教材を編集執筆する。

2. 点検・評価

親子の信頼関係の尺度開発を行い、その成果を、論文化し投稿する準備を行った。その尺度の信頼性妥当性の検討および尺度を用いた関連研究のために、共同研究で親子関係に関する研究「添い寝が子供の愛着に及ぼす影響 日本応用教育心理学会第27回研究大会」および「親子の信頼関係尺度に関する予備的研究 鳴門教育大学研究紀要第27巻」を発表した。この資料を保育者対象の研修や講演・子育て相談を行う際の資料として一部活用している。さらに共同研究で、保育者と幼児との信頼関係の尺度開発に着手しており、次年度の保育学会に発表を予定している。

さらに初心者向けの保育心理学のテキストや教材を編集執筆予定で執筆者の選定を行って本年度執筆依頼を行う。その他、保育にかかわる共同研究として、「保育専短期大学生の保育者効力感と対児感情の関連—実習による変化の視点から— 四国大学紀要」「乳児への保育実践力を身につける授業の試案とその成果—大学内での赤ちゃんサロンでの取り組みから— 鳴門教育大学授業実践研究12号」等を発表した。

Ⅱ－3. 大学運営

1. 目標・計画

各種の委員会委員として、本学の運営に貢献する。
コース長として本学の運営に貢献する。
連合大学院講座副議長として本学の運営に貢献する。
大学院定員充足のための大学訪問、説明会等に積極的に参加する

2. 点検・評価

施設整備委員会エコアクション21専門部会委員、大学機関別認証評価ワーキンググループ委員として、本学の運営に貢献した。
コース長として本学の運営に貢献した。
連合大学院先端課題実践開発連合講座副議長として本学の運営に貢献した。
大学院定員充足のための大学訪問、説明会等に積極的に参加し、個人的な訪問を含めて9校の訪問を行った。

Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携、国際交流等

1. 目標・計画

附属幼稚園と連携を図りながら、毎年実施されている自然プロジェクト等の企画に参加し支援する。
教育支援アドバイザーに登録し、依頼があれば優先して講演等の依頼を受ける。
徳島県内、特に鳴門市内の幼稚園等の保育相談・研修依頼・講演依頼を積極的に引き受ける。

2. 点検・評価

附属幼稚園と連携を図りながら、毎年実施されている自然プロジェクト等の企画を支援した。
教育支援アドバイザーに登録し、依頼があれば優先して講演等の依頼を受けるようにしている。本年度は1件の問い合わせがあったが校務のため辞退した。
徳島県内、特に鳴門市内の幼稚園等の保育相談・研修依頼・講演依頼を積極的に引き受けている。本年度は鳴門市内で4件の保育相談を実施した

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)